第44回市政一新市民会議・会議録（議事要旨）

Ⅰ. 開催日時　平成23年3月23日(水曜日)　9時30分～11時30分

Ⅱ. 場　　所　名張市役所　庁議室

Ⅲ. 出 席 者

市政一新市民会議		会　長	中川　幾郎	学識経験者
		委　員	岩崎　恭彦	学識経験者
		〃	梅本　俊子	公募委員
		〃	菅井　杏	関係団体
		〃	寺田　智子	関係団体
		〃	冨山　修	関係団体
		〃	中山　登貴	関係団体
		〃	溝延　克彦	公募委員
		〃	室谷　芳彦	関係団体
	(欠席)	〃	伊藤　英次	関係団体

(50音順･敬称略)

〔議事説明者〕	地域担当部長	金谷　保史
	地域政策室長	荻田　敏文
	地域政策室員	久保　厚史
事務局	企画財政部長	山本　順仁
	行政改革推進室長	橋本　裕徳
	行政改革推進室員	高橋　優子･今村　典義

Ⅳ. 内　容

１　市民と行政の協働のまちづくりの推進について（資料１）

２　その他

（１）行政改革推進に関する提言について(資料２)

第44回市政一新市民会議･会議録（議事要旨）

1. 市民と行政の協働のまちづくりの推進について

〇地域担当部長より説明

平成15年度からスタートしたゆめづくり地域交付金制度は、一定の成果をあげてきたが、課題も多くあり、解決に試行錯誤している状態である。平成21年度からの第2ステージでは、大きく3つについて取組みを進めている。

一つ目は住民自治力の強化であり、地域ビジョンの策定、コミュニティビジネスの導入促進、法人化促進、人材の育成、ガバナンスの強化などである。

二つ目は、行政と地域の新たな関係づくりであり、上下関係ではなく、対等･協力の関係を構築するため、権限･財源の移譲のあり方、委託業務のあり方、ボランティア委嘱委員のあり方などを整理していきたい。

三つ目は、地域づくりという視点での新たな行政システムの構築である。地域づくりという視点で横断的に連携調整を図るための、現在のような縦割りではない、縦割りと横割りを併用した新しい仕組みを検討している。

特に重要なことは、「行政から地域へ」の流れを「地域から行政へ」の流れに転換し、市民の行政参画から「行政の地域参画」を行政の仕組みとして整理することであり、行政の仕事を地域にしてもらうのではなく、地域ができることを地域で行い、地域ができないことを行政が行うという意識改革が必要ということである。

地域づくりの今後のあり方に対する基本的な考えを整理して行政と地域が共有していくことがとても大切である。

現在、各地域づくり組織では地域ビジョン策定に取り組んでいただいているが、地域ビジョンの実効性を確保して地域づくりが行政の押し付けではなく、真に自分たちのまちは自分たちで創るという意識のもとで、今後は、地域の土俵で行政が汗をかき、地域と行政が協働によって地域づくりをできるようにしていきたい。行政が地域の土俵で汗をかくことで行政と地域の信頼関係を築きあげることができると考えている。

資料にある地域予算制度の見直しについては、今後、この制度に合わせて行政組織の見直し、行政システムの見直しも行う予定である。この見直しにあたっては、行政の都合で行うのではなく、地域の立場に立って、地域の目線で進めたいと考えており、H24年度以降、順次導入できるよう、現在作業中である。

○会長

分かりにくいというところがありましたら質問してください。

○委員

ゆめづくり協働事業について、市から提案を行う事業というのは、各地域で策定される地域ビジョンに基づいて提案するのか。

○地域政策室長

基本的には、総合計画または、各所管が持っている個別計画に基づいてそれぞれの所管が地域と協働しながら、今後、市としてどのような事業を実施していくか、それを行政の方から提案をさせてもらいたいと考えている。地域ビジョンには直結していない場合もあると思う。

○地域担当部長

例えば、公園の管理について、草刈だけでなく「公園そのものを地域の皆さんで管理運営してくださいね。それにかかる経費はお渡しします。そのなかで、草刈もして、ゴミの清掃もして、あるいは遊具の点検もして、その公園で色んなイベントもして」という形、そういったものを地域で管理できるような形にお願いできませんか、といったことが考えられる。そういう提案をこれから、どんどん行政側から地域へしていけたらいいなと考えている。

○委員

既存の協働事業を具体的に教えてほしい。

○地域政策室長

公民館の指定管理、草刈について行政が今までしていたものを地域へお願いしたり、集会所を建ててもらう時に補助金を出すといったことがある。

○地域担当部長

学童保育も既存の協働事業の一つである。

○委員

つつじが丘でも、地域づくり委員会でビジョンをどうするか色々アンケートを取ってやっているが、範囲が広すぎて、明確になっていないため収まりがつかない。例えば道路の問題とか学校トイレの問題、そういった本来は市がやっていくべきものまで色々声が出て焦点がぼやけてきている。意見

の吸い上げをどの範囲でやるかで戸惑いがあり、優先度をどちらにするのか、困っている。ゆめづくりはこの範囲だよというぐらいに、ある程度大枠を示してもらわないと言いたい放題で、収拾がつかないという状況がある。

○地域政策室長

地域ビジョンについては、基本的には市からは、「自由に作ってください」というのを基本にしている。ただし、基本構想があって次に基本計画がある。ある程度基本構想というと「こんな町を作りましょう」というふんわりしたものになってくるのかなと思っている。「ここに何かを建ててほしい」とか、「こういうものをしてほしい」といった具体的な実施計画については、各地域において必ず挙げてくださいとは、言っていない。今後1年１年で、ビジョンを作られたなかで、どのような事を地域が優先して望まれているのかということを、市の方からも聞かせていただいて、またそれを提案してもらうというような形を考えているので、今すぐにその計画のなかに入れておかないと、今後計画に乗ってないからといって、そのことを市に提案できないというものではないので、詳しく事業計画をあげてもらう必要も無いと思う。

○委員

あまり小さいことにこだわってやると動けないような状況があるので、そこは色々テクニックの問題もあると思うが、住民が動けるような予算取りにしてもらうようなことが絶対必要ではないかと思う。

○会長

地域予算の新たなものとして説明のあったゆめづくり協働事業については、地域づくり委員会側からの提案事業と行政側からの提案事業と二通りあるということだが、この協働事業の中身は、いわゆる委託事業と補助事業と二つあり注意しなくてはいけない。委託事業というのが行政責任の事業を市民のほうで力を貸して下さいということであり、補助事業というのは、市民側の責任に対して、行政がお助けしますということですから、最終責任の所在が違う。このことの認識し直し、分別が必要だと思う。

参考までに、このような行政側提案の協働事業、市民側提案の協働事業、という方式を取っている自治体は関西ではもう沢山出てきており、西宮市、豊中市、神戸市等ではもう実践されている。市民側からの提案事業というのは委託事業になりうるケースと、純粋な補助金、市民が勝手にやるからそのお金を応援するというのと二通りありますので、これを市民側も分別しないと混乱することが実例からもわかっている。場合によっては「してあげているのに、行政が手伝ってくれない」のような、ストレスが溜ま

る。

市民側ももっと訓練が必要である。行政側の提案事業もほとんど大半が委託事業である。行政側が補助事業を提案することはありえない。このことは理解してほしい。補助金というひとつの資金タンクがあって、市民公益活動助成や地域づくり活動助成など公共的事業だったら、この基金を使って住民が自由に提案してくださいね、という形はある。しかし、テーマを決めて、このことについて補助金を出すから誰かやりますか、というようなことを行政は言わない。

この行政側の提案事業というのは、全ての部局が提案をする余地を持っていると思う。広報紙の発行でも、例えば市民企画･市民執筆、そういうページを一度立ててみませんか、のってくれる市民はありませんか、そういうグループはいませんか、という事例は宝塚市がやっている。また、同じ広報でも「なぜ市民が広報誌を読まないだろう、どうすれば市民が広報誌を読んでくれるのだろう」ということを市民自身が市民にインタビューをしたり、調査したりして誌面改革のための委託調査事業をやる、というケースもある。これも市民との協働事業である。議会事務局が誰も読まない議会広報という事に対して、どうすれば読んでくれる議会広報になるのかを一般市民公募をして、そして皆が面白がって読む議会広報を作る企画会議のようなことを協働でする。消防本部においても、「全市民のうち5人に1人はＡＥＤの能力を持っている町」を作るにはどうしたらいいのだろう、ということを一緒にやって企画するなど、いくらでも考えられる。こうした場合は、地域づくり委員会だけがパートナーになるのではない。

地域づくり委員会とパートナーシップを結ぶ場合は、もっと地域に密着した話になると思われる。

この市民と行政の協働のまちづくりの推進について、追加の提案、意見等、思いたことがあれば発言いただきたい。

○委員

今回の提案には概ね賛成である。この事業については全ての部局に事業を立てる可能性があると思うので、とりわけ行政側から提案するものとして、福祉、防災などの面について色々と協働で、地域との連携で事業化していくという事が必要なのではないかと思っている。

ただ、そういった行政側からの提案を今回一緒に制度化するという事について考えると、これまでは地域の方々が地域ビジョンを立てて、それに基いて予算を消化していくというようなものがゆめづくりだったし、そのための予算だというふうに整理をしてきたわけだが、これからは行政側から提案する事業についてもそれを一緒に予算化していくという事なので、大きく性格

が変わると感じる。

また、それを、これからもゆめづくりと言い続けるのかどうか、という事について、若干の整理が必要ではないか、行政側から提案するものも含めてゆめづくりとはなかなか言いにくいのではないかと思う。

○会長

地域予算という名前に変えてもいいかもしれない。

○委員

今まで一人の市民として、もう少し市民の側によった何かがあったらいいのになと思っていた。一昨年区長になり、地域と行政の間の軋轢を見て、ここはもう少しこうだとか、色々思ったものがあった。例えば治安・公安に関することなど地域を取りこんだことについて、基本的なところで行政と地域とが、いろんな面で支える事が出来るように地域側から提案もしていくと、より安心安全な地域になるのではないかなと思う。

○会長

市政一新市民会議での意見の資料については、後で議論する。「市民と行政の協働のまちづくりの推進について」の意見を。

○委員

ゆめづくり地域予算制度というのも言葉しか知らなかったので、この資料を見て、実際こういう事になっているのだなとあらためて納得することができた。

地域ごとにいろんな地域色が出て、本当に自分達の周りが自分達の住みやすいところになるような予算があるということをおそらく多くの方は知らないと思うので、地域によって差が出てくると思う。地域づくり協議会からその予算がおりるところの性格が出てくると思うので、そこの部分において、地域の人と地域づくり協議会の人達との関係や、地域づくり協議会と行政の職員との関係など、様々な所で理解度が違うので、「本当はこういうつもりだが、こっちがどうなのか」ということが出てくるのではないか。そこが気にかかる。この制度はとても素晴らしいので、それがよく働くように、相当情熱を持った人達が間を取り持たないと、なかなか大変ではないかなと思う。この案のようになったら、すごく楽しい市が出来るだろうと思う。

○委員

旅行業をしているが、今回の大震災で、その日のうちに市役所の危機

管理室から「名張市民の方は東北地方なり、震災のある方向にどなたか行っていませんか」という電話が入った。その電話1本で、行政の心強さというのをすごく感じた。今、地域にこういう委託なり、協働が進められており、また震災で行政機関が倒れた町などは、地域の人の力が大きいと思う。名張は地域と行政のバランスがいいようにできているのかとも思うが、見直しもしてもらいたいと思う。

○委員

素晴らしい計画ができてきて、非常に楽しみにしている。絵に書いた餅にしないために、大前提として、市の職員の意識改革がまず、第一だと思う。ある一部の部署でこのように素晴らしい企画が出来て、色々動きかけようとしている、ところが、違うところの部署のある部長は「そんなの知らない」と横を向いている、そういうのが現実である。私はここ2～3年これに直接関与しているが、それをかなり肌で感じる時もある。逆にいうと、このシステムを構築しようとしている一部の部署と関連の部署の人達は、行政のなかで孤立しているという部分もある。私は今回も色々お願いして進んでいこうとして、ほぼ完成に近い状態になっているのだが、その道中というのは非常に険しい道のりだった。担当の部署の部長に話に行くと、もう昔からのいわゆる行政主導型の話しかしない。「あんた誰なのですか」というような言い方をするので、「おれは税金を払っているのや」という話になることもあった。

そうではなくて、やはり新しい名張作りをしないと、名張をいろんな意味で底上げしていくのに、やはり行政の力だけではなくて、住民の力だけではなくて、第三の力というのは、これかなというふうに考えているので、皆さんも、また今申し上げた大きな課題があるが、これは時間が解決すると思っているので、長い目で見て協力していただきたいと思っている。よろしくお願いしたい。

○委員

地域ビジョンから出る声と、地域ビジョンから出ない声というのがある。例えば、私はテニス協会に所属しておりテニスに関する施設の改善等色々今までフォローしているのだが、中央公園の体育施設の関連などは、地域ビジョンからは出てこない。

例えば、サッカーやソフトなどで使う陸上競技場のフェンスは外れてみっともない状況になっている。本当はそういう施設を利用している団体が施設改善の声を上げるといいのだが、そこの施設を管理する人のビジョンの問題、職員の心がまえ、そういうところの改善が、絶対洩れていると思う。

また、川については、市民と川というような関係で身近な存在だが、国

土交通省の管轄であり、市では、支川で農業用しか管理しないということで市と範囲が違うということで、そこも住民から声が出てこないと思う。

もうひとつは、先ほどの公園の問題だが、つつじが丘の公園は法面が沢山あり、法面の作業が大変だということで、草刈りの頻度が少ない。だから草がぼうぼうと生えて子どもたちが遊べないような状況になる。法面と平坦地というのは分離して管理して平坦地で遊ぶ所は、草刈りの頻度をよくするとか、そういう工夫が必要ではないかと思う。

公園に関しては、色々とやりたい事があるが、公園の何をやるかという事で限定すると動けなくなるので、幅をもった予算の交付金で、住民が協働するところは協働するというスタンスで出来ると思うのでそこの工夫が大切である。

○委員

今回つつじが丘でビジョンづくりについて最後の話し合いをしたが、結局1年かけて一生懸命作っても、せっかく作ったビジョンに対して来年度は予算があるかと言ったら、「無い」と言われた。この一生懸命やってきた1年間は何だったのだろうということになるので、このビジョン作りをするのなら、来年度少なくとも事務手数料ではないところで、予算なりをつけてもらわないと、もうやる人がいなくなる。今、本当に一生懸命この1年間頑張ってきてくださった方で気持ちが離れていっている方が沢山いらっしゃるので、もう少し連動したサポートの仕方がなかったのかなと思う。

また、ゆめづくりの色々なビジョンのなかに、例えば私はＮＰＯでいろんな活動をしながら、地域経営室の方に、色々な事でかなりお世話になって活動がすごくしやすくなったのだが、なかなかそうやって繋いでもらえるものも少ないところもある。そういったところを例えばゆめづくりのビジョンのなかでもっと企業への参加を呼びかけたらどうかなと思ったりしている。

今、地域バスのことがよく出ているが、生活支援事業と一緒にして何かすると、地域バスを走らせていただけるという話もあるのだが、なかなか素人が手を出して黒字事業に持っていくというのは本当に難しい。そういうところを三交バス等に繋げていただいたり、他にまだバスを持っていらっしゃる会社もあるので、企業にとっても有利なお話もどこかで繋いでいただいたりしながら、もっとビジョンが現実化するようなところにならないのか、というのを感じる。

委託事業と補助事業の違いについては、市民活動をしている人達は自分達の思いを形にしたいと思って頑張っている中で、この流れは私達も受けてきて「委託事業」や「補助事業」とコロコロ名前が変わって、それで補助事業になった時点で何のことやら分からなくなった。もっと、公募され

るところに、委託事業と補助事業の違いというのをきちっとしていただかないと、不満ばかりがつのってしまうし、補助事業の方が夢を持って参加できる団体もあるのではないかと思う。

今年、市の選定を受けて小規模多機能を準備していて4月1日開始予定だが、違うところで補助事業を受けることになって、驚き、困っていることがある。市の今までの委託事業や補助事業を受けてきた時には、他所の日本財団等もそうだが、申請したら大体8割方初めにもらえるので要るお金の目途がついて活動してきたが、今回の地域密着型のサービス事業所小規模多機能に関しては、完成するまでは、全くお金がもらえない。はじめの設計段階からお金がないので補助事業額の2500万円で設計をして下さいと色々な会社を回ったが、ほとんどは協力してもらえなかった。建物に関しては、何とか用意できたのは100万円だけで、他は全部支払いを待ってもらっている状態。建設は丸栄さんが入札して下さったので、して下さったのだが、担当の方に「初めにいくら払って、真ん中でいくら払って、最終的にはいくら払って、というのが普通なのですけれど」と言われた。設計士の方や様々な業者の方にも待っていただいている状態である。

地域密着型の事業であるということで、様々な地元の企業にも協力してもらいたいなと思ったりするなかで、この入札の仕方も大きな建物を建てるような入札の基準と全く同じで、例えばその業者を福祉に精通したきちんとした業者の方にお願いをしたいと言ったところ、全業者が対象になっていて、かなりお願いをして、ある程度のランク以上で福祉の建物を建てたこともあるし、専門の方がいらっしゃるとか、いろんな条件を付けさせてもらったが、大きな役所の建物を建てるような基準と、たかだか小さな家を建てるくらいの基準とが全く一緒になっていたり、そのあたりがこの1年活動をしてとても困っていた。そのあたりももう少し考えていただきたいと思う。

○会長

今おっしゃったのは何の事業のことで、委託なのか補助なのか。

○委員

小規模多機能という、地域密着型の介護保険の事業所のことで補助金をもらう。

○事務局

県の100%の補助金で市が経由して交付する。

○会長

それは、地域づくり予算と何か関係があるのか。

○委員

地域づくり予算とは関係ないが、地域密着型の事業であり、地域の中にお年寄りもいるという制度を作っていくような形のものであるので、もっといろんなところで連動して進めてもらえると、もっと進んでいくのではないかと思う。

○会長

その精算払いという話は、補助金が精算払いということか。

○委員

そのとおり。

○委員

補助金は精算払いしかないのではないか。

○事務局

補助金の中でも一部、先に払って後で精算するやり方もある。そういうやり方で今までしていたのが、今回は精算払になったということだと思う。

○委員

ゆめづくり地域予算制度についての中身は非常に分権化に即応した形で進んでいるので非常にいいと思っている。

地域の独立化というのか、地域でできる事は地域で、そして行政との協働を伴っていくということは、地域がそれだけ協働、あるいは自助、自分達の力で物事を進めていくというひとつの大前提に進んでいくから、より行政主体から住民主体になっていく。これは非常に結構な事だと思うし、それをまたやっていかないといけない時代に入っていると思う。そういうことになれば、当然住民の方々と代表者とのコンセンサスをしっかりとっていって、住民の声に代表者はきっちり応える、その代表者会議が15チーム組んでいるわけなので、その15チームのきちっとした代表者の方々が地域の声を吸い上げてきて、そして検討会に入ってそれを行政や議会にきちっとそれを伝えて、それに対する回答をもらって進めていく。だから、補助金であろうが委託費であろうが、助成であろうが、しっかり再度見直して無駄な事は削る。そして、それを進めるところは進めるということである。

また、先ほどの公園とか草刈りについては、新しい団地のところは確か

に草刈りの補助が出ているけれど、昔からの旧村部は、そういう補助金は一切出ていない。全部ボランティアでやっている。だから、そういうことをあまり大きい声でいってはいけない。道つくり、道路云々、市道云々、全部地域のものはボランティアで刈っている。美旗、蔵持、赤目、青蓮寺、箕曲、錦生等は全部ボランティアであり補助金はもらっていない。だからあまりそれは大きく出してはいけないと地域経営室のほうでは、私は言わせてもらった。「補助金はいらない」と私が言ったら、「そういう具合にはいかないだろう、最低のものは決めないといけない」というので「じゃあ、最低のものはここ2～3年後にきちっと決めてください。補助金が出るところと出ないところがあるのは良くない。公平にやりましょう」と言っている。

委託についても、やはりしっかり見直して地域分権を言うなら、地域でできる事は地域に全部委託するという形を取ってください、行政で委託したら、行政の専門業者に委託してやるというのも、しっかりもう一度見直して、というようなことも言わせていただいている。

要するに、代表者会議で地域の住民の声にきっちり答えられて、そして地域は地域でやっていく。そこで尚且つ協働できるタイプのものについては、行政と力を合わせていただくということであり、このシステムは非常に結構だと思う。我々もこれを代表者会議の方では、その行政との対等の位置、あるいは議会との対等の位置のなかで、応えていけるような仕組みを作っていただきたいということで依頼している。

私は錦生でコミュニティバスも経営していて、年間550万円かかる。年間550万円のうち、補助金をどうしてももらわなければやれないところもあるが自助努力で大体350万円ぐらいは自分のところでやっていけるような見通しを付けている。そういうものも地域でやらないとダメであり、「行政の力をお借りして」と、そんな甘い事を言っている時代ではない。自分達のところは自分達でやっていって、プラスしていくという、ゆめづくり予算制度の拡充というのは、それが大事だと思う。25年度から、例えば3千万円は、こういう計画を持ってこういうことをするについて、いかがですか、という答申型にさせてもらわないと、交付金ですよと、渡すような甘い事をやっていたらダメだと思うので、この仕組みは非常にいいと思う。

○会長

地域ビジョンができていると言いつつ中身がどれくらいの濃淡があるのか、単なるイメージとして構想程度なのか、行動計画になっているのか、これをもう一度精査する必要があるという気がした。

それと地域ビジョンのなかで、行動計画までありますとか、部門別にきちっと貼りつけてありますという場合は、その政策の優先順位というか、行政

が格付けする場合もあげていいのではないか。何らかの行政が支援するというか、格付けする場合の優先順位のルールをつくるべきではないかという気がしてきた。

その一方でそんな計画どころではない、ビジョンだけで精一杯で、あとは中身をどう纏めていくかというか、組織作りでまだ苦しんでいるのです、というところがあると思う。そういうところは最低統一基準として、行政の支援が必要と思われる。そういうところを放ったらかしにしたらいいのではなくて、つまり、困っているところは助ける。その助けるのは統一的に助けましょう、みんなが平等に助けますよ、しかし、よく頑張っているところには、よく頑張っているところなりの得する部分を働かせますよ、という2段ルールが必要なのではないかという気がする。

例えば、結束力も高くて、自分達が公共的な事業までかなりやっているというところもある。「あ、そうですか、ありがとうございます」と放ったらかしにしていたら、すぐに済むわけであり、文句ばかり言っているところは得する、それは困る。やっているところに対しては、そういうところにありがとうございます、という部分、もっと違うところに別の支援が回るというふうなルールを作らないといけないのではないか。こういう事がこの地域ビジョンの話で出てきたと思う。だから、しっかり頑張ってしかも自分達で仕事もやっていて、あまり行政に負担をかけていないところはそれ以上に得するようなルールを作らないとまずいということである。

○委員

地域ビジョンを作るというところで、かなり問題が発生していることについて、私は美旗で、一番先にビジョンを立ち上げ実施案までかなり進んでいるというところである。まずビジョンを作るのに一番大切なことは何かといったらコンセプトである。そのコンセプトがあって、ビジョンがあって、ビジョンに基づいた事業計画があって、その下に事業の実施案がないと、結局繋がりができない、だからバラバラになってしまう。それで、細かいことばかり隅をつついてるという現状がおきていると思う。そういうことが起きた場合に一番簡単な方法というのがあるので提案させていただきたい。今地域づくり組織というのは全部一応構築するようになっていて組織ができている。その中にいろいろな部会がある。そのいろんなことを例えばワークショップして、してほしいことを全部出しておいて、その部会へ全部ぶら下げに行く。その部会で全部動いている、企画運営してもらうという形を取れば、一人二人三人五人ぐらいの上にいる何人かの人間が全部考えていかないといけない。予算も付けないといけない。予算は最初からつかない、だから部会の中でぶら下げるという形が一番端末まで見える。組織構成をきちっとすれ

ば、いいかなということである。これは但し、絵に書いた餅になる可能性はあるが、ただやらないよりはやったほうが良い、という具合に考える。

また、地域づくり組織の温度差が出てくるのではないかということについては、全くその通りだと思う。その地域づくりというのは、例えば今コンセプトがあってビジョンがあって実施案があってそれから実施計画ができた。地域づくり組織は、目的はハード事業ではない。ひとつの単なるいわゆる目安として、ハード事業があって、そこへ行くまでのプロセスがまちづくりである。いろんな方の努力とともに、そこへ行くまでの人達のいろんな葛藤があったような話を聞かせてもらっている。ただ、それがために地域で、今まで話をしなかった人が「あんな人が居たのだ」と、「あんな専門的な知識を持った人がいたのか」という事になってくると、それを共通の認識として地域で持つことによって、それが地域力になっていく。それがまちづくりだと認識されると、そんなに難しい事はない。肩の力を抜いて、何もあれをしないといけない、これをしないといけないというのもない。ただ、地域づくりというのは、皆さんハード事業だと思っているがそうではない。ソフトウェアですから、ソフトを作るためのひとつ大きなハードが、何かがあって、それに対してやっていくためのプロセスを作らなくては動かないので、自分達で作る。その作ること自身が地域づくりなのである。

このように考えていただくと、他のひとつができると、次もできる、次もできる、という形になっていく。だからそのへんのことの、いわゆるプロセスだけ、ひとつとりあえずできたら、あとができていく。という具合に考えて私どものほうはそれを進めていってるということである。うまくいっているほうかなとは思う。

○会長

地域によって温度差があるというのは当たり前の話で、美旗も名張も同じようにやれと言うのはファシズムである。燃えているところがあると思えば、もうバラバラでまとめるだけでも大変だというところがあって、当たり前であり、それに応じた二段ルールを設定しなければいけないのではないかということである。

国道とか都道府県道あるいは市道、林道、それも実は地域づくり委員会の資産なのだという思想で物を考える必要があると思う。「これは県立公園だからうちは関係ない」ではない。市立公園でも我々の資産とは思ってなかったように、河川域も我々の資産である。だからこの河川をきれいにするため河川にいろいろ捨てるのを我々地域づくりの力でブレーキかけないか、ということも活動の中身に入ってくる。所有権はどこかということとは関係なく、みんなの資産だと思えということである。それのよりよい運営をして

いくために、こんな事したいなあんな事してほしいなといった時に、次に分けて考えないといけない。これは研修もいると思うのだが、これは地域でしかできないな、あるいは地域でするべきことだなという仕事と行政でないとできない仕事とを、まずを振り分けする作業が必要である。また、その両方が力を合わした方がいいということがある。この3つの分類をする訓練をしてもらいたいと思っている。

ところが、今の地域ビジョンはきちっと作っておられるところのほうがむしろまだ少なくて、ぼやっとした夢になっている。夢を描いている夢物語ビジョンと文句たれビジョンの二つに分けられるのではないか。文句ばかり書いてあるビジョン、「あれもない」「これもない」「これをやらんか」行政に対する不信ばかりが底流に流れているようなビジョンはもう役に立たない。だから、ビジョンを抱えたなら、それを実現するためのプロセスを人づくり、仕組みづくり、そして最小限必要な施設・物というふうに組み立てていかなければいけないので、その構想力をもっと持ってもらわなければいけない。そこのところを含めて行政任せにしていた住民の力量が試されている、というのはこの地域づくり委員会のこれまでの検証だと思う。多くの地域づくり委員会が随分と頑張っておられているし、私は落第点を取っているような地域づくり委員会はないと思う。しかし、役員も入れ替わってきてるし、やはりその中で振り出しに戻りかねない話もあるかもしれない。そういう意味では、ちょっと検証し直したらいいと思う。

また、ビジョンを実現するために、予算がないと言われたという話だが、その貼り付けられている予算で、このビジョンの実現してほしいといってきた時に、地域交付金を使ってやるべき仕事なのか、それとも行政の方にやってほしいと頼んだ行政の仕事として行政側にその予算がないと言われたのか、どちらか分からなかったのだが。

○委員

自分達でできるようなトイレ掃除はボランティアで、皆でやろうではないかというような話で、例えば次の予算がおりてくるのが分からないからという理由で、箒ひとつ買う予算が事務費以外には何もないというようなことがあり、せっかく、やろうかといったという気持ちがなえてしまう。

○会長

今の話は、地域づくり委員会のなかで出た話しとして、施設の箒がほしいということに関する予算が行政は持ってないからということなのか。

○委員

地域予算のなかに、現状ではこういう項目しかないから、そういうのは出せないというようなことだと思う。大きな枠で指定いくと、そのなかに、ちょっと転用していくことも可能になるのだが。

○会長

行政側の管理責任の仕事なのか、地域予算を使ってやる住民側の話なのか、という仕切りを整理したうえで、議論をする必要がある。例えば施設の清掃に関しては行政側の経費で持っていますというものなのか、地域予算でやりますとなっているのか、そこをまず整理しなければならない。

○委員

地域づくりの予算の性格を知る必要がある。地域づくりの予算の中から、交付補助金とかは出せないので、今の話の部分は、地域づくりの執行部のほうで話合って、やっていただいたらいいと思う。いわゆる事業費として落とす方法はいくらでもあるので、そのあたりはもっとすり合わせしていただくといいと思う。

○委員

地域づくり委員会へ交付金がおりてきている。その交付金が下りてきている分について、どのように予測していっていこうかというのを作るわけなので、細分化された担当の方々が集まっていただいて、その予定を考える、予算を考える、その執行をどうするか考える、その意見を集約してきて代表者会議で話しているのが我々代表だと思う。そういう話し合いというのはあまりしていないのか。前年度の予算はどうやって取ったのか。

○委員

今は、ビジョンづくりを行っている。前年度の予算取りには関与していない。

○委員

関与しなかったら、おかしい。今の計画を、地域づくりの委員会が実現したという実績を落すためにも、そういう資金から、多少転用して、小事業でも、やったという達成感を味わう場を、ということをしてくれないかという意味だが。

○委員

それは地域づくり委員会の方からその予算をもらってという事か。

○委員
　そういうことである。

○委員
　その中身を、多少その細目で、こういうことになっているから、それが転用できないという話になった時に、若干そういうのは運用でということもありえるはず。

○委員
　それが今のように連続減額になってきたら、どうするのか。

○委員
　その場合には、要するに人のパワーというか、労働力を提供して効率を上げようかということである。

○会長
　地域の任されている自己責任に使うべき予算の分野と行政の方でしてもらわないといけない部分が市民には分からない。それを、仕分けしていくためにはやはり毎年役員研修がいると思う。

○委員
　うまくいっているところの方が、顧問的に指導してくださるような感じだったら、話がすっきりするのかなと思う。

○会長
　つまり、地域ビジョン策定に関することだけではなくて、地域予算のあり方も含めて、毎年役員が替わるたびに、最低限研修が必要である。分からないままにやっているところがあるのではないかと思う。

○委員
　逆に続いているところは、きちっと流れを持って進めていく必要がある。

○会長
　去年も聞いて、「いいわ」という人は、来てくれなくても構わない。役員が入れ替わったら、入れ替わった役員を対象に研修の必要がある。特に大

事な事は、地域の責任でやるべき事と、行政の責任でやるべき事と、仕切りがあることで、それが分からないままに議論しているところがちょっとあるのではないか。

また、行政に対して要求するのが地域の仕事だと思い込んでいるところがある。そうではなくて、地域でないとできない事を地域でどれだけ頑張るか。そのためのサポートとして、どういう行政の機能を期待するか、という事を毎年毎年精査していく仕事が必要である。そうではなくて一貫して行政に要求する事が仕事だと思い込んでいる地域づくり委員会の役員もまだ一部いらっしゃると思う。

○委員

これは市の職員の部長クラスの人達が、意識改革がなかなかできないというのと全く同じだと思う。

○会長

行政職員の縦割りのなかで、地域づくり委員会に対する認識すらない幹部もまだいるというのは重大問題なので、これはやはり行政側の地域づくり委員会に関する認識を深めるための研修が必要である。

思い切った提案をするが、地域担当職員を経験することをいいアドバンテージとして、人事評価の対象にしてほしい。人事評価システムのなかに経験ルールだけ入れたらどうか。窓口現場を担当する職員が、経験が何年かある者のみを係長昇格の対象とするとか。地域担当総括を担当していないものは課長に昇格できない、とか。たったそれだけでいい。評価なんかしなくてはいい。客観的経験のみをルールにしてしまう。それだけでかなり文化は変わると思う。

○委員

今、地域づくり委員会に地域部長か何か担当部長といった市の顧問のような人が来られているが例えば土木の関連とか総合的なビジョンがなく、あまり意見はおっしゃらない感じで交通整理が全然できていないような感じもする。ただ、私達の意見を聞いている感じで、仕切りというのがあまりないような感じがする。そこの仕切りかたを色々教示していただいて、地域にしていただいたら、そうすると住民も同じようにこれはこうだ、これだけのことを討議しようかということで、交通整理が出来ると思うのだが。

○会長

大体意見は出たと思うので、また案を補強してほしい。

2．その他
(1)行政改革推進に関する提言について
○事務局より説明

○会長
　この第 4 期市民会議としての任期が7月で切れる、それを目途として市長宛の意見書を取りまとめてはどうかという、事務局からの提案である。それは出せて当然だろうと、私は思っているが、その点に関しては異議はないか。

○委員
　意義なし。

○会長
　それでは、意見書として、平成15年3月分や21年1月のときのように、一枚もののペーパーに集約させていこうということなのか。

○事務局
資料2については、これまでこの第4期の現在の委員からいただいた意見を羅列したものであり、項目を少し立てて、簡単な形でとりあえず纏めたという段階である。

○会長
　出た意見についてはこの資料に網羅されているのだが、今回は第4期の意見書であり、スタートからもう10年経つ。市政一新議案はもうない。市政一新市民会議という名前ももう変えてもいいのではないかと個人的には思っている。一新というイメージからは、もう少し次のステップに入っているのではないか思うし、今までの市民会議の提言･意見書を見ると、緊急性が結構あった。危機感があった。コストを下げる、定数を減らす、職員を減らすというような減らす話ばかりが前半にあった。中盤からもう少し、今度は効率性というか、同じ仕事をするなら、もっと効き目のある仕事に変えていこうではないか、そういう議論に移ってきているように思う。今回は第4期であるし、もうこれ以上絞れないぞという状態になってしまっている。
　この名張でここまで頑張ったから、ようやく黒字転換の見込みも立ちつつはあるが、残念ながら今度の大震災、政府の税収減で、もう数年先まで凌がないといけないという見込みである。黒字転換は3年遠のいたと思うが、

まだ危機は続いているので、その危機意識は継続する必要があるだろう。しかし、疲れも見える。職員がかなり疲れている、地域づくり委員会ももっと頑張っていただかないといけない。そんな状況なので、もっと元気の出る提言にしてはどうか。今までは、文句ばかり書いている感じがしないか。

○委員

今までは、コンセプトがない。一番根幹にあるものがないと思う。

○会長

つまり夢がない。現状を否定しているばかりの提言というのは、もう止めてはどうか。何かもうちょっと元気の出る、プラス思考型のものでいかないと、もう忍耐力が続かないような気がする。

○委員

印象に残っているのは、今次のプログラムが最終版、総仕上げだということと、そこでの目玉は量の削減ではなく質の向上なのだということだったと思う。それで、質の向上というのは、それを突き詰めれば明るい社会を作っていくというようなところにも、結びつくことではないかなと思うので、総仕上げとしてひとつのゴールを目指す。そのゴールが質の向上なのだ、というような形で何らかの形でそれを提言に反映させていただけるといいのではないかと思う。

○委員

「名張に住んでいれば非常に高い教育を受けることができるなど教育力で勝負する」。やはりコンセプトをこう書いていても、実際に何をするのだろうと感じる。希望を持っていても実際には朝ごはん食べさせて学校へ送り出し、所定の授業の時間割が終ったら帰ってくるという毎日であるが、学校で学んだことが家でどう活かせるか、家庭で教育していることを学校でブラッシュアップしてどう社会に旅出させてやっていけるのかというところがちょっと不安に思う。

京都市の教科書訴訟で有名になった家永先生の『生き方の流儀から』という対談集の言葉から引用すると「憲法の条文には、教育の自由という文字がないけど、憲法の精神から言えば当然国民は権力の思うままの鋳型にはめ込まれた人間にされてはならない。どういう人間になるかは、それぞれの国民の自由なのだという事」、やはりこれも、こうは言っても実際にはどういうふうにしてくれるのか、という疑問が湧いてくる。

例えば、5年生になれば家庭科の授業があるが、いずれ子どもが独り立

ちしていく時に料理の一つも作れないといけないわけだが、「じゃあ今日は習ったものを僕が作りたい」と言っても、大抵のおうちでは「そんな事しないでいいから、テレビやゲームをやってなさいよ」でなければ宿題。それで宿題が終ったらゲーム、そんな感じで子どもにしたらダブルバインドだと思う。自分の今まで勉強した事を活かせる場がなく、そのまま生活を経てきて、いきなり高校を卒業したから働けるよね、というのではないと思う。

地域に住んで学校に行かせるので学校と地域とは切り離せないものだが、これが家という箱に入ってくると、学校で学んだことが活かせない。それでいて義務教育を終えると一人前だと送り出してやらなければならない。この矛盾をどうしてくれるのかなと思う。それで名張が非常に進んだコンセプトを作ってもらって考えて、打ち立ててもらって、実際に教育で勝負してもらうと、名張力がアップするのだろうなと思う。

○委員

名張は大変な時期があって、これから3年間も震災があって大変な事もあるだろうけれど、その大変な事によって、じゃあ市民をもっと巻き込もうとか、もっとこういうふうにしたら効率的ではないか、というふうに、変わっていきつつある、変わっていこうとしている、という事がすごいなと思う。こういう事でもなかったら、きっと「何してくれるのかな」というような感じで、「税金を払っているのだから」と皆が言うように、払っているから何もしなくてもいいという感覚で、違う、という意識を持たないままずっと生きていったのだろうなと思う。

危機的な状況は皆の能力を呼覚ます、といったところがあるので、そういう事を踏まえて、ここで芽生えたものを育てていこうよ、のような提言があったらいいかなと思うし、これから名張で若い人達が残ってもっとやっていこうよという気持ちになるのは、やはりここの地域に魅力があればこそだと思うので、その魅力は皆自分達で作る、というような、そういうことがあればいいかなと思う。

○委員

私は商工会議所の団体に所属しているので、商工会議所の方で意見を言いながら、経済の面で名張のまちづくりを考えていきたいなと思ってる。

○会長

経済活性化に繋がる改革を、ということ。

○委員

それは入れられると思う。もっと金を使えという話だけではないと思うので。

○会長

同じ使うなら、名張経済の振興に繋がるようなお金の使い方を考えてください、など。

例えば、指定管理者を使う場合でも地域づくり委員会にお願いするのと、大阪に本社のあるビル管理会社とか警備保障会社にお願いするのとでは、サービスの水準がやはり地域づくり委員会のほうが悪いと思う。値段も高くつくかもしれない、片方は安いかもしれない。しかし、安物買いの銭失いにならないのか、ということを考えないといけない。その会社はここに法人税を払ってくれない。雇用も地元雇用が増えるわけではない。というふうに同じコストダウンと言っても下手をするともっと大きな金の損失を招くコストダウンもありうる。そういうことを商工会議所がもっと提案されたらいいと思う。

地元で雇用したら、その人がまた消費税も払ってくれるし、住民税も払ってくれるし、生活保護も減っていく。

○委員

今回の大型店が来る話は撤退で決まったが、やはり、採算が合わなかったらすっと撤退していかれるので、そこに廃墟が生まれる、そういうまちづくりは絶対阻止しないとダメだなと思う。

○会長

なんでも工場を持って来いとか、産業誘致など言っている時代はもう無くなったということである。下手すると、焼畑商業の犠牲者になってしまう。そういう視点もあったらいいと思う。やはり、自立型経済を目指していこうということになるのかと思う。

○委員

「名張が貧乏をしているから逆に反発力ができたのではないか」、まちづくり委員会の動きが非常に激しくなって、名張が非常に激しく動いているという、その感じがはっきりする。つまり、「火事場の馬鹿力」と言いう、ちょうど亀井市長が非常事態宣言を出して「亀井さんがああいうのだから、やろうか！」と立ち上がったのがまちづくり委員会である。この近隣の山越した向こうのところ、しっかり財力を持っている市があって、そこが地域づくり委員会を作りたいと

言って、相談に来られるのですが、相談に来るのは行政の人ばかり。「お金は」と聞くと、「お金はありますが、そのお金を使ってもらうプロセスが何とかなりませんか、と言っているのが、なかなかできません」と言っている。全然フィールドが違うので、我々の話がどこまで参考になるか分かりませんけれども、まったく反対だなということがある。

提言に関する意見として一番基になるものとして、魅力のある名張を作る。その魅力のある名張というのは何かというと、外から見た名張の価値観を底上げする。「ああ、名張ってこんなところなんだ、素晴らしいじゃないか」というような底上げをするのに、官民一体になって共同体を作っていくということ。これは、外から見た価値観が上がると地価が上がる。当然、不動産も税金も、人も寄ってきて人口は減らない。外へも出ない。増えるかもしれない。電車の便が少なかったのが、特急の数が増えるかもしれない。そのあたりに大きなコンセプトを持って名張全体が考えていく。今この住民の力が大分出来かかっているので、ここ2～3年の間にその方向へ向けて、何か大きい動きができたらなという具合に。私共の単位で10分の1なのですが、やろうとしている事はそれに近い状態を考えている。基になるもの、つまり火事場の馬鹿力を利用して魅力のある名張作りを構築していく。それは外から見た名張の価値観というもの。

議員や市長が中を向いている。彼らは票をもらわないと、次へ続かない。でも我々はそんな事関係ないので、関係のない位置でのいわゆる提言という形で、大きな意味での提言の基になるものという具合に考えている。

○委員

私は職員もビジョンを持たなければいけないと思う。そのビジョンのコンセプトは、安全と安心と快適、その3つとしたいと思う。例えば、名張の自然。名張は水がきれいであるし、安全にも繋がる。

私はテニスをしているので、コートの表面がひび割れたり、フェンスがボロボロになって、子どもの目を突きそうな危ないものに気がつく。随分対応していただいたが、職員が施設管理をするときには、その施設がどうあるべきかというビジョンを持っていないと、その施策というのが出てこないと思う。住民から言われる前に先取りした施策、ビジョンを実現してもらったら、住民も納得して、「ここはいいなあ」という快適性というのが、おのずから出来ると思う。そして、ビジョンを持ったら、クイックレスポンスということで、例えば意見が色々あったら、対応を早く、スピーディにやってもらうと市政のサービス向上となり、住民の満足度を得られると思う。

私もすでに自ずからやったような、例えばフェンスの修理のようなことはお金をかけなくても職員の意気込みだけで、本当はいつでもできるが、そう

いうことの先取り精神があまりないのが、良くないと常々思っている。
　ビジョンを持とうというコンセプトで、その中身は安心・安全・快適性ということ、また、職員の対応がクイックレスポンスということを指標としていくとよいと思う。

○委員
　一時、子育て世代の方々が核家族なので、子どものしつけができていないという話があった。最近は、つつじが丘でもビジョン委員会に沢山のリタイアされた方が夢を持って頑張って下さっており、それこそ行政に対して言っていくという方向にばかりではなくて、できる事をやりたいと言って下さっている方が多い。おそらく、今の若い世代の核家族の方々のサポートは団塊の世代の方々が、今後やってくださるように思う。子どもの見守り等を見ていてもすごく温かいものを感じるし、町を歩いていても子どもがちゃんと「おはようございます」と、声掛けができていると最近すごくよく感じる。そういった状態に今なりつつあるので、この次は、今30代くらいの若い世代がチャレンジしやすいような、そんな制度を作っていっていただきたいなと思う。ずっと様々な活動をしてきても、委託と補助事業の違いが分からなかったりするので、若い人が何かやりたいと思った時に、それをもっと分かりやすく滑り出しができるようなものを作りたいと思う。

○委員
　市政一新会議はホップ・ステップのステップぐらいに来ていると思う。一新委員ということではなくて、改善ではなくて、私は長期的な展望と短期的な展望のなかで、私のところは、無医村になったので、さあどうしようかと活性化ビジョンでおこして、医者に来てもらう。そして医者をまず安定させる。生命財産を守っていくのは地域で守っていかないといけない。だから医者がいなかったら、医者に来てもらうように、働きかけて、そして来てもらう。8月までに医者に来てもらうつもりで、今、動いている。それも好意があって、お金もかけずに来てもらうわけだから、地域を提供するわけだが。
　そういうことをやっていくのと同時に、やはり今聞いていたら、皆さん地域代表者の人たちと会合をしてもらわないといけない。代表の人はお金を持っている所だから、今のこのご意見というのをできるだけ集約してやってもらったらもっといいようなことをしっかり話をしなければいけないと思う。ここで話しているのを、どこかへ響いていくのかと思って、意見書出して市長に提示する、じゃあこの話を地域代表者が知っているのかどうか。地域代表者が全く知らないでこちらの意見だけで提示しても地域代表者は何も知らないではないか、となったら、また話がちぐはぐになってしまう。やはり、終始

一貫した流れというものを作っていかなければならないと、思っている。

また、やはり全体として、この西の玄関から東の玄関まで、筋の通る道を作ってほしい。バイパスあるいは大きく言えば道をきちっと作って、伊勢を通る、あるいは名阪へ通れる道、そして交通網をまず充実させないと発展しない。これは昔から変わらない。それから、名張川、これもひとつも改良にならない。国土省は何も動かない。名張市も誰も働きかけするのだけれど、嘗められている。そうなってきたら、それを動かすのは誰ですかとなったら議員は行政のチェックばかりしていたらいけない思う。もっと、議員は名張市の発展のために、病院もそうだし、バイパスもそう、川もそう、そういうものを全体的にもっと促進した形で行政と引っ張っていってもらうような活動をやらない限りは、今の給料は半分でもいい。あるいは、10人、5人でもいい。そういう提言をしたらどうか。それ以上の仕事をしたら、給料だって高くても構わない。しかし、今皆さんが言っているような問題のことで何か、大本でしっかり目を向いて進んでいるかといったら、あまり進んでいないと思う。

どぶの板を付けたり、そんな事は地域代表者で全部できる。地域代表者はそれぐらいの仕事が全部与えられている。だからしっかりやっていける。そのために公金が入っている。それだったら、それ以上の仕事をやってもらわないといけない。だから、そういう提言はこの一新会議の締めの会議で出してもらわないといけない。やはりその立場になった人は立場通りちゃんと仕事をしなさいというぐらい表現を変えて、示すべきだと思う。

○会長

資料2の7ページに議会に関する事として2～3人減らすように、とある。

○委員

2～3人じゃなく10人くらい減らさないといけない。人件費が年間1千万円としたら、1億違ってくる。

○委員

あまり沢山減らしたら、今度はそれが結束したら、どっちでも行く。それが恐いので、よく減らして2割と思う。

○委員

仕事していれば何も文句はない。こうやって、お金も無くなってきた時期であり、誰も自分から言わないので意見書に示す必要がある。

○会長

意見書としては、ちょっと制約がある。市長が招集している委員会であり、議会が召集しているわけではないので、議会に対する発言は会議録に残すけれど、提言書の中に入れられない。議会の権限を侵していることになるので、そういう壁はある。議会議長と市長があわせて一緒に召集してくれたのだったら、両方いるが。ご理解いただきたい。

もっとも三重県が突破口を開いたので議会に関する審議会も持てるようになったが。

意見書には、さきほどからいただいたような意見をまた盛り込んだらと思う。次のビジョンに向けて改革しようということで、今までのように危機を回避するとか、危機を克服するための改革から、より素敵な町、名張を作っていくための改革というのに位置づけを直したらどうかと。それはやはり基本的には安全・安心・快適だよという事を申し上げましたけれど、ターゲットとしては軽視されているところがまだある。それは教育とか文化という事である。教育・文化・観光という事も、もっと重点投資をしていって、名張をグレードの高い、しかも発信力があって、そとから見て「名張って行ってみたいな」と思わせるようなまちづくりを描き直さないといけないのではないか、ということである。それで、尚且つ子どもが育てやすい町だという事のイメージを作ったら、若者世代もそこに住み始めるだろうし、という意見であった。

学力の面で名張の高校というのはそれなりに定評がある。中学・高校の学力が高かったらそれなりの平均所得の高い世帯が来る。これは間違いない話であるが、偏差値の高い学校づくりをしましょうなんていうと、別の問題がある。なぜかと言うと、障害のある子もいるし、そういう子達を切り捨てたような教育というのはまずい。そのあたりで言いにくいところがあるのだが、やはり教育力の高い町を目指すということでいいのではないか。

それから、「市政一新市民会議」という名前を変えるということに関しては今もご発言があったように、もうそろそろ「市政活性化市民会議」や「ビジョン推進市民会議」に変わっても構わないかなと思う。

○事務局

これまでいただいた意見と、今日いただいた意見を含めて、分かりやすいような形で柱立てをして、事務局として、意見書の原案を書き出してみる。それについて、以降の会議で検討して、委員の皆さんご出席していただいた中で意見交換も含めて、提出という形がいいのではと思う。

○委員

この意見書というのが出て、何か回答のようなものがあるのか、一方通

行なのか。

○会長

提出するだけだが、公開する。市長の政策に反映されると期待するということである。

(2) その他

次回の会議の日程について

⇒提言書の提出を7月下旬頃とし、次回会議を5月 20 日午後とし、そのときに意見書の提出日を決める。

以上